

2014.8、9月号

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

- ・アーバンインフラ・テクノロジー推進会議 P 1
平成 26 年度 第 2 回都市基盤施設整備見学会（交流見学会）・
都市みらいプロジェクト説明会の開催
- ・第 22 回合同講演会の開催 P 3
- ・地下研 第 41 回定例懇話会報告（8 月 7 日） P 4
中国の各都市における地下利用の現状
- ・機構の活動状況 P 6

§ アーバンインフラ・テクノロジー推進会議 平成 26 年度 第 2 回都市基盤施設整備見学会（交流見学会）・ 都市みらいプロジェクト説明会の開催

アーバンインフラ・テクノロジー推進会議（都市みらい推進機構）では、皆様方が関心を持っておられるプロジェクトを選定し、現地にて、当該プロジェクトのキーマンから詳しい説明をしていただく交流見学会（プロジェクト説明会）を行っております。

昨年 11 月に開催した「環状二号線新橋・虎ノ門地区」での見学会では、Ⅲ街区（虎ノ門街区）において立体道路制度による環状二号線（新虎通り）が建物下部を貫通するトンネル入口部分や虎ノ門ヒルズ外観などを視察しました。今回は、環状二号線（新虎通り）の開通と期を同じくして、6 月に完成した『虎ノ門ヒルズ』の施設内部の見学会を森ビル様のご協力により開催しました。9 月 5 日の見学会には、30 名の方々にご参加いただきました。当日は虎ノ門ヒルズ 2 階フロントロビーに集合し、オフィス階にて森ビル(株)都市計画本部計画統括部事業改革部部長 太田慶太様から虎ノ門ヒルズについてのビデオ上映、概要のご説明および質疑応答の後、内部空間をご案内いただきました。地下および外部空間については森ビル(株)環境推進室課長 武田正浩様からご説明を受けながら、視察しました。

■概要説明

虎ノ門ヒルズは、環状二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業のⅢ街区再開発ビルとして建設された（国際ビジネスセンターの一翼を担う）多機能複合型の超高層タワーです。



【虎ノ門ヒルズ外観】



【虎ノ門ヒルズキャラクター】



道路上空に建築物を立てる画期的な手法として「立体道路制度」を活用し、東京都施行の市街地再開発事業の中で環状第2号線の整備と一体的に建築した超高層タワーです。東京都が「事業協力者方式」「特定建築者制度」を導入し、官民連携による都市開発が行われたプロジェクトです。

事業名称：環状第二号線新橋・虎ノ門地区第二種市街地再開発事業 III 街区
 所在地：東京都港区虎ノ門一丁目
 敷地面積：17,069㎡
 建築面積：9,391㎡
 延床面積：244,360㎡
 階数：地下5階、地上52階、塔屋1階
 用途：事務所、住宅、ホテル、店舗、カンファレンス、駐車場
 建物高さ：地上247m
 構造：S造（一部SRC造、RC造）
 事業施行者：東京都
 特定建築者：森ビル株式会社
 設計者：株式会社日本設計
 工事施工者：株式会社大林組



【森ビル／太田部長による概要説明】



【新橋・虎ノ門地区模型】

■新虎通り／新たなシンボルストリート

新橋・虎ノ門エリアを通る環状第二号線（新橋・虎ノ門間）が戦後もなく始まった都市計画から68年の歳月を経て、3月末に開通しました。この道路は、都心部の道路ネットワークを強化する基幹道路で、地上部の「新虎通り」はオープンカフェなど街の賑わいや活力を生み出す東京の新たなシンボルストリートとして整備される予定だそうです。



【虎ノ門ヒルズから見る新虎通り】

■虎ノ門ヒルズ

虎ノ門ヒルズは、東京都が外国企業誘致を推進する「アジアヘッドクォーター特区」に位置しており、最高スペックを備えたオフィス、日本初進出のホテル「アンダーズ 東京」、眺望抜群なハイクラス住宅「虎ノ門ヒルズレジデンス」、国際水準のカンファレンス施設や商業施設、約6,000㎡のオープンスペース等で構成。JHEP 認証（生物多様性保全・回復の取り組み評価認証）で最高クラス AAA 取得しているそうです。



【緑豊かなオープンスペース】

■【オフィス：6～35階】

30フロアを占めるオフィスの基準階の貸室は、約1,000坪、天井高2.8mの無柱空間を実現し、フレキシビリティの高い快適な空間となっていました。

■【地下階】

電気・ガス・重油による電源供給システムについて説明を伺いながら熱源機械室、非常用発電機室を視察しました。

3種類の制振装置による高い耐震性能や、非常時に専用部に対しても電源供給を可能とする非常用発電機を備えるなど、事業継続性にも配慮されているのが特徴。

環境性能評価「CASBEE」では、最高ランク「S」を取得しているそうです。



【オフィスフロア／広々とした無柱空間】



■【カンファレンス施設「虎ノ門ヒルズフォーラム」:4～5階】

国際会議から展示会まで幅広く対応でき、貸室面積合計2,200㎡は、新橋・虎ノ門エリア最大級だそうです。

3つのホールのほか、4つの会議室と4つの控室があり、多様な会議やイベント等、幅広いニーズに応えられるよう工夫されていました。

■【商業施設：1～4階】

1階から4階までの商業エリアは、「Communication Hub（コミュニケーションハブ）」をコンセプトに、虎ノ門エリアのオフィスワーカーや、ホテル・カンファレンスのゲスト、近隣住民の方など様々な人々が集い、コミュニケーションが生まれる場所として、飲食店舗や、サービス店舗などが入っているそうです。

「環状第二号線（新橋・虎ノ門間）」の開通と「虎ノ門ヒルズ」の完成は、2020年東京五輪に向けた東京再生の先駆けとなり、東京の新たなランドマークとして、今後、新橋・虎ノ門エリアの飛躍的な発展につながるものと、大いに期待が高まりました。



【地下階／画面による一括管理システム】



【虎ノ門ヒルズフォーラム／ホールの視察風景】

§ 第22回合同講演会の開催

都市みらい推進機構、都市地下空間活用研究会（地下研）及びアーバンインフラ・テクノロジー推進会議（UIT）の三者合同による第22回合同講演会を、9月12日（金）15時から都市計画会館において開催いたしました。

今回は、国土交通省総合政策局政策課の山川 修 企画専門官をお迎えし、「平成27年度国交省重点施策と予算概算要求」と題してご講演いただきました。

当日は約30名の会員の方々にご参加頂きました。

以下の「国土交通省重点政策2014」関連資料に基づいて、予算概算要求も含めてご説明頂きました。

【講演内容】

演題名：平成27年度国交省重点施策と予算概算要求

講師：国土交通省総合政策局政策課 企画専門官 山川 修 氏

（内容）

1. 「国土交通省重点政策2014」概要
2. 「国土交通省重点政策2014」本文
3. 参考資料

本文「1. 東日本大震災からの復興加速」参考資料

本文「2. 地方の創生、人口減少の克服」参考資料

本文「4. 観光立国の推進」参考資料」参考資料

本文「5. 国際競争力の強化と世界の経済成長の取り組み」参考資料

本文「6. 国民の安全・安心の確保」参考資料

本文「7. 我が国の主権と領土・領海の堅守」参考資料

本文「8. 中長期的見通しを持った国土交通政策の計画的推進」参考資料

<資料掲載サイト>

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/sosei_point_tk_000018.html

本合同講演会は、今後も国土交通省・関係各課にご協力をいただきながら、開催して参ります。



ご講演：山川 修 氏



講演会場の風景



§ 地下研 第41回定例懇話会報告（8月7日） 中国の各都市における地下利用の現状

地下研 粕谷太郎主任研究員

去る8月7日に地下研の粕谷太郎主任研究員による第41回定例懇話会を新丸ビル10Fエコツェエリア協会の会議室で開催しました。

講演のタイトルは、「中国の各都市の地下利用の現状」と題したもので、内容は、昨年11月末、今年3月末と5月中旬及び後半に中国の武漢（北京建築設計院関係）、上海同済大学建築設計院、南京、長春において、日本の地下利用と法制度等の講演、地下利用を計画中の各都市での会議に招聘されました際、短い時間帯での状況の中で、関係者の配慮もあり訪問都市周辺の地下空間利用状況について写真等に収めたものを中心に解説しました。



中国の各都市及び世界の主要都市での地下鉄の整備状況（次頁）についての説明では、2000、2005、2010の路線延長を示しました表のとおり、成熟した都市であるロンドン、パリ、ニューヨーク、モスクワ、東京はその路線距離では上位を占めていますが、この10年の伸びは少ない。一方、上海、北京は大きく伸びている。2014年には上海468km、北京約465kmであり、世界一を競っており、今後は中国の各都市が大きく伸びる傾向にある。



講演中の粕谷主任研究員と会場の状況

また、中国の地下利用の大きな特徴として、地下鉄・高速鉄道の拠点駅には、地下駐車場と地下街が併設されているケースが多く見られます。併設地下街はサンクンガーデン方式（オープンカフェスペースや休憩スペースが確保されている）が多く、通路幅も広く、複数階に店舗配置がされ、地上までエスカレータ、エレベーターが整備されており、周辺や広場内空間の緑化がされているケースが多く見られます。

今回訪れたほとんどの都市の中心部分のメインストリートにおいて地下鉄が交差しており、その箇所サンクンガーデンと地下街、地下駐車場が造られており、多くの人々が地下空間を利用している様子が見受けられ、計画の有効性がうかがえました。また、周辺のビルとの接続もされており、地下ネットワークをする計画が垣間見られ、回遊性の重要さに配慮された計画が進行しているように感じました。

タクシーを含む公共的な交通の利用料金は、各都市地下鉄初乗り2元（1元＝約16円）、30駅路線で9元、新幹線駅～空港約50km（上海150元、地方都市120元程度）、新幹線瀋陽北～長春西グリーン車約300km約220元であり、日本に比べて安価に感じました。（文責 粕谷）





§ 機構の活動状況

日	7月	日	8月	日	9月
18	今後の市街地整備事業のあり方に関する検討会(第2回)			5	プロジェクト説明会(虎ノ門ヒルズ)
23	今後の市街地整備事業のあり方に関する検討会(第3回)			10	都市基盤・情報発信検討調査打合せ(第2回)
28	都市基盤・情報発信検討調査打合せ(第1回)			11	水防法に基づく地下街等の避難確保計画・浸水防止計画の作成に係わる説明会(大丸有・内幸町地区)
30	今後の市街地整備事業のあり方に関する検討会(第4回)			12	第22回合同講演会(重点施策・平成27年度概算要求について)

【機構関係諸団体】

《都市地下空間活用研究会》

1	大阪分科会リーダー打合せ	5	国交省打合せ	3	地下シンポ委員会
2	地下街防災業務打合せ	7	地下研 第41回定例懇話会	4	G空間打合せ
3	千代田区調査	19	国土情報課打合せ	4	国交省地下街打合せ
7	地下街打合せ	20	G空間打合せ	8	地下街打合せ
8	国交省地下街打合せ	25	地下街打合せ	9	国交省地下街打合せ
10	事業部会・国際交流部会合同会議	26	国土情報課打合せ	10	国土情報課打合せ
11	エンジニアリング協会	26	八重洲ヒヤリング	10-12	土木学会年次講演会(大阪)
15	エンジニアリング協会委員会	26	地下利活用コア会議	11	大阪分科会幹事会
16	地下利活用リーダー会	27	地下防災勉強会	12	第22回合同講演会(重点施策・平成27年度概算要求について)
17	千代田区打合せ			16	地下街打合せ
24-26	高知・地下空間と防災講演			17	国交省地下街打合せ
30	土木学会地下シンポ			23-25	ACUUS2014(都市地下空間国際会議) ソウル

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

1	第26回技術研究発表会 予約申込締切	4	H26年度第2回都市基盤施設整備見学会・都市みらいプロジェクト説明会<虎ノ門ヒルズ> 参加申込受付開始	5	H26年度第2回都市基盤施設整備見学会・都市みらいプロジェクト説明会<虎ノ門ヒルズ>
1	第21回交流展示会 募集開始	6	第22回都市みらい・地下研・UIT合同講演会 参加申込受付開始	5	第22回都市みらい・地下研・UIT合同講演会 受付締切
2	第26回技術研究発表会 追加募集開始	19	第26回技術研究発表会 論文締切	12	第22回合同講演会(重点施策・平成27年度概算要求について)
10	H26年度第1回都市基盤施設整備見学会・都市みらいプロジェクト説明会・官民連携による都市インフラの再構築研究会 H26年度第1回見学会 募集締切	22	H26年度第2回都市基盤施設整備見学会・都市みらいプロジェクト説明会<虎ノ門ヒルズ> 受付締切	25	第5回官民連携による都市インフラの再構築研究会 講演会<海外のインフラ事業におけるPPPの現状と課題> 参加申込受付開始
17	H26年度第1回都市基盤施設整備見学会・都市みらいプロジェクト説明会 <殿町キングスカイフロント>			29	第28回技術研究発表委員会 論文委員会
17	官民連携による都市インフラの再構築研究会 H26年度第1回見学会 <殿町キングスカイフロント>				
23	第27回技術研究発表委員会				

《まちづくり情報交流協議会》

15	平成26年度まちづくり情報交流協議会全国大会			3	メルマガ6号 発出
				9	メルマガ7号 発出

(一財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区関口1-23-6
 プラザ江戸川橋ビル201号
 電話 03-5261-5625
 FAX 03-5261-5629
 Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧下さい
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・都市再生整備計画事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援
- ・エリアマネジメント企画 他